

柳の新芽輝く春 水面きらめく夏 紅葉の彩り映す秋 そして、冬のこたつ舟

たちが、卒ひとつで、ゆつら〜と舟を進めていきます。

暮らしから生まれた川下り

月が出るのを待って、どんこ舟に乗って宴を楽しんだり、どんこ舟競争をしたりと、郷土の記録に残るその暮らしの中の遊びが「川下り」とわたのには、訳があります。

柳川は詩聖、北原白秋の故郷。その少年時代を描いた柳川出身

の小説家、長谷健原作の『からた

ちの花』が映画となり、昭和29年

にロケが行われました。柳川の風景

が全国のスクリーンに映し出された

ことから、「あの舟遊びを」との声

が数多く寄せられたのです。やが

て、地元は念発起し、もてなしと

しての「川下り」が始まりました。

木陰さす掘割沿いは、桜や菖

蒲、紅葉と四季折々に彩られ、狭い

水門をくぐったり、船頭さんの歌に

耳を傾けたり。時には白秋の童謡

が、道行く人のもとへも風につて

運ばれてきます。

待ちぼうけ

待ちぼうけ

ある日せつせと野良稼ぎ

そ〜に兔がとんで出て

ころり、ろげた木のねっ〜

再びきこえてくる水音に、思わ

ず時間を忘れる川下りです。

「川下り」とは、昔ながらの掘割、いわゆる江戸時代の柳川城のまわりを、「どんこ舟」にゆられながら巡っていくという、柳川ならではの時の過ごし方です。船頭さん



予約なしでも乗船できるのがうれしいところ。コースは約70分。予約をすれば、舟の上で、郷土料理の鱒の蒸籠蒸しやお酒など、宴も楽しむことができます。夜の川下りも楽しめます。



掘割の水が大変汚れた時代がありました。昭和50年代より、地元の人びとの懸命な努力が積み重ねられ、今の風景があります。その物語は、宮崎駿製作、故高畑勲監督・脚本のドキュメンタリー映画「柳川掘割物語」となりました。この掘割の水は広大な柳川の農地を潤しながら市内を縦横に走り、有明海へつながっています。